

残したい境の風景 塚崎の獅子舞



平成 27 年 5 月「境町合併 60 周年記念式典」での舞披露

次の世代へ受け継ぐ「伝統と誇り」

350 年以上前より塚崎で継承されている「塚崎の獅子舞」。伝統あるこの獅子舞は昭和 35 年に県の無形民俗文化財に指定されています。塚崎の獅子舞を守り、次の世代に引き継ぐために、伝えたい想いを塚崎獅子舞保存会の皆さんに伺いました。

参考：さかいの歴史ものがたり、境の生活史



の終わりと同時に獅子の「風がけ」の中に頭を入れて無病息災や生まれた子の健やかな成長、良い子宝が授かるよう祈願します。

で評価されています。塚崎獅子舞保存会の会長であり、香取神社の宮司でもある大賀音市さんは「保存会の継続は、町や地域の協力があってこそ。これからも一丸となって、塚崎の獅子舞が後世に残るよう一生懸命努めていきたい」と語ります。



茨城県功績者表彰報告のために来庁した塚崎獅子舞保存会の皆さん



獅子の風がけに包まれ、厄を払い祈願する

家庭の和を教え導く 獅子による風流舞

「塚崎の獅子舞」は、毎年 4 月・7 月・11 月の 15 日に塚崎の香取神社で行われる祭礼です。五穀豊穡、天下泰平を祈願する行事ですが、雨乞いのために獅子の威力を借りて祈禱していたという言い伝えもあります。

祭礼の日には多くの人たちが参詣し、獅子舞を見学した後、舞

この獅子舞は、「男獅子」「中獅子」「女獅子」の三頭が登場します。それぞれ木綿の単衣に袴を着け、わらじを履いて、小太鼓を付け、篠笛に合わせて舞を披露します。男獅子と女獅子は夫婦で、中獅子は男獅子の弟で、この三頭の獅子は家族を表しています。舞には、地を這うようなしぐさが多く、家族で話し合うことの大切さを舞を通して教えているようです。

「三頭は、夫婦に弟が協力しているしぐさが多く、舞の中で、何事も女性に相談しながら、対策を考え、解決策を実行していく」といったような動きかな」と保存会の皆さんが言うように、遠い昔から、先人達が家庭はこうあってほしいという願いを込め、その想いをこの獅子舞に託し、家庭の和を教え導いてきたのでしよう。



塚崎獅子舞保存会
会長 大賀音市さん

塚崎の獅子舞 伝統を守りたい

塚崎の香取神社には、昭和 35 年 3 月に茨城県の無形民俗文化財に指定された「塚崎の獅子舞」があります。その歴史は古く、始まりは 350 年以上前と伝えられています。この由緒ある「塚崎の獅子舞」を守るため、塚崎獅子舞保存会は、継承活動を行っています。

昨年 11 月には塚崎の獅子舞保存会が、教育・伝統芸能の分野で「茨城県功績者表彰」を受賞しました。1 月には「第 42 回茨城県郷土民俗芸能の集い」に出演し、感謝状が贈呈されるなど、保存会の取り組みが様々な場所

大千ばつを救った 雨を呼ぶ獅子の舞

舞には、「せきもんどり」「はねこみ」「ひら」「うずめ」「ぶつちらかし」など 10 種類があります。獅子舞は、雨を呼ぶ神として昔から崇められていました。舞の中でも、「天水こぼし」は干ばつの時の雨乞いの舞として有名です。文化年間（1804～18）の大千ばつの際、関宿藩主久世大和守に雨乞いの舞を奉納し、見事大雨を降らせた褒賞として、風がけにある井桁に本の紋章と朱塗りの樽が贈られたと伝えられています。



風がけにある紋（井桁に本）は、関宿城主より贈られた褒賞と伝えられている